

## 寺まち・米まちバタンバンでの素敵な出会い

「町を歩けば、坊さんに出会う」。バタンバン州には、約5100人の僧侶がおり、約320寺の寺院がある。フランス統治時代の建物の前を、托鉢僧が肅々と歩く姿に懐かしさを感じながら市街地を離れると、一面に広がる広大な稲田。ここは、京都と新潟が合わさったような、懐かしさと美しさを兼ね備えた町だ。

私が勤務するのは、バタンバン州教員養成校附属小学校。各学年2クラスずつの小さな学校で、約400人の子どもたちが日々学んでいる。私はここで、理科・音楽・体育の支援を行っている。経験豊富な同僚が多く、授業が上手い。そんな彼らの授業をさらに良くするために、理科は主に教材・教具作りと実験支援。指導経験の



ピアノ指導・めきめき上達する子どもたち

少ない音楽と体育は、私が授業を行い、同僚に支援をしてもらいながら共に行っている。

毎日が新鮮で楽しいが、言葉の壁や多忙、失敗で嫌になるときもある。そんな時にいつも支えてくれるのが、お坊さんだ。クメール語やカンボジアの文化を教えてくれたり、実験材料を集めてくれたり、時には悩みを聞いてくれたりと、私の活動を支えてくれる“先生”であり、“心の友”である。こんなかけがえのない出会いと経験を与えてくれたこの地で、またみんなと再会できる日を心から待ち望んでいる。



大好きなお坊さんと両親(本人右端)

### 長屋景子 Nagaya Keiko

愛知県半田市出身。小学校教諭。現職教員特別参加制度で青年海外協力隊に応募し、念願のカンボジア隊員として合格。2019年度1次隊でバタンバン州教員養成校附属小学校に配属される。教員経験を生かし、理科・音楽・体育の支援を行う。カンボジアでの趣味は、お寺巡り。心の友はお坊さん。

※現在、JICA 海外協力隊は新型コロナウイルス感染の拡大を受け、日本に一時帰国中です